

今日の一問 (やまだ塾)

(2008年10月29日掲載)

No.89	乳幼児、高齢者の食べ物による窒息と応急手当について述べよ。
解答	<p>【1】乳幼児、高齢者などでは食べ物による窒息がおきやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●厚生労働省人口動態調査によれば、食べ物による窒息の死亡者数は、最近では毎年4千名を超えている。 ●気道が3～6分間閉塞されると死亡することもある。 <p>(1)乳幼児</p> <p>①乳幼児で窒息が起こりやすい理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臼歯がなく食べ物を噛んですりつぶすことができないため。 ・食べるときに遊んだり泣いたりするなどのため。 <p>②窒息を起こす原因になる食べ物</p> <p>ナッツ類、丸いあめ、ブドウ、プチトマト、もち、ちくわ、たくあん、こんにやく入りゼリー、生のにんじん、棒状のセロリ、リンゴ、ソーセージ、肉片、こんにやく、ポップコーン、せんべい など</p> <p>(2)高齢者</p> <p>①高齢者で窒息が起こりやすい理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だ液の分泌が少なく、摂食・嚥下機能が低下しているため、ご飯やパンなど粘りのある食べ物など咀嚼しにくく大きな塊のまま喉に入って窒息に至ることもある。 <p>②窒息を起こす原因になる食べ物</p> <p>加熱してもやわらかくなりにくいもの(いかやたこ、きのこ類など)、硬いもの(ナッツ類など)、厚みのないもの(海苔やレタスなど)、パサパサしたもの(パン、ふかし芋など)、繊維の強いもの(青菜類など) など</p> <p>【2】食べ物による窒息事故を防ぐために重要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食べ物は食べやすい大きさにして、よく噛んで食べる。 ●食事の際は、なるべく誰かがそばにいて注意して見ている。 <p>①乳幼児への注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤って気管支に入りやすいピーナッツなどの豆類は3歳になるまでは食べさせない。 ・急停車する可能性のある車や揺れる飛行機の中では食べさせない。 ・あおむけに寝た状態や、歩きながら、遊びながら、ものを食べさせない。 ・食べ物を口に入れたままの会話、テレビを見ながらの食事はさせない。 ・小さな食べ物を放りあげて口で受けるような食べ方をさせない。 ・食事中に乳幼児をびっくりさせるようなことはしない。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

<p>・乳幼児に食べることを無理強いしない。</p> <p>・年長の子どもが乳幼児に危険な食べ物を与えることがあるので注意する。</p> <p>・嚥下障害をもつ障害児では食べ物による窒息がおこりやすく、十分な注意が必要である。</p> <p>②高齢者への注意点</p> <p>・口の中の乾燥、歯の喪失なども咀嚼機能の低下につながるため、食事の際には、お茶や水などで口の中を湿らせ水分をとりながら食べるとともに、歯周病予防や義歯の調整などにも心掛ける。</p> <p>【3】応急手当</p> <p>●119 番通報を誰かに頼み、ただちに以下の方法でつまった物の除去を試みる。</p> <p>①背部叩打法</p> <p>乳幼児では、口の中に指を入れずに、乳児は片腕にうつぶせに乗せ顔を支えて、また、少し大きい子は、立て膝で太ももがうつぶせにした子の「みぞおち」を圧迫するようにして、どちらも頭を低くして、背中をまん中を平手で4、5回叩く。なお、腹部臓器を傷つけないよう力を加減する。</p> <p>②ハイムリッヒ法(腹部突き上げ法)</p> <p>大人や年長児では、後ろから両腕を回し、「みぞおち」の下で片方の手を握り拳にして、腹部を上方へ圧迫する。この方法が行えない場合、横向きに寝かせて、または、座って前かがみにして背部叩打法を試みる。なお、高齢者では、食べ物が口の中にたまっているが見えれば、まず、ハンカチやガーゼなどを巻いた指で口から掻き出すことを試みる。</p> <p>【4】その他</p> <p>食品衛生法(厚生労働省管轄)、JAS法(農林水産省管轄)、消費生活用製品安全法(経済産業省)などの関連法規には「食品による窒息などの事故に関する規定」がない。各省とも窒息事故があっても、製品の回収命令などの強制力ある措置は取れないとの立場をとる。</p>

(参考)内閣府食品安全委員会資料